

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2024年10月3日(03.10.2024)



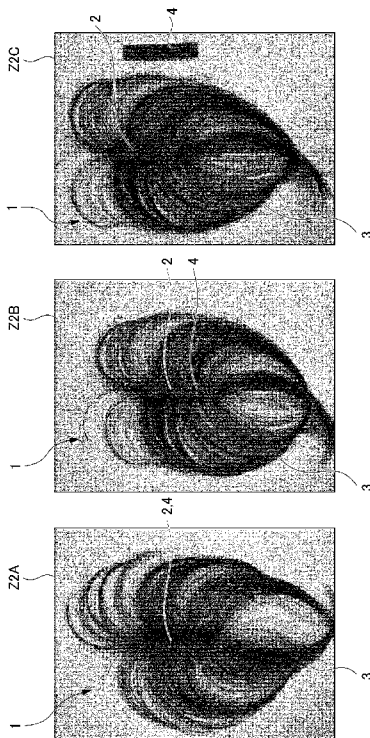
(10) 国際公開番号

WO 2024/202505 A1

- (51) 国際特許分類:
A41G 5/00 (2006.01) A41G 3/00 (2006.01) 5 番 2 1 号 株式会社ペスカインター
ナショナル内 Tokyo (JP).
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2024/003042 (74) 代理人: 崎間 伸洋, 外 (SAKIMA Nobuhiro et
al.); 〒1000005 東京都千代田区丸の内 1 - 7
- 1 2 サピアタワー Tokyo (JP).
- (22) 国際出願日: 2024年1月31日(31.01.2024)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2023-056914 2023年3月31日(31.03.2023) JP
- (71) 出願人: 株式会社ペスカインターナショナル
(PESCA INTERNATIONAL CO., LTD.) [JP/JP];
〒1570066 東京都世田谷区成城六丁目 1
5 番 2 1 号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 佐久間 ひさ子 (SAKUMA Hisako);
〒1570066 東京都世田谷区成城六丁目 1
- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CV, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IQ, IR, IS, IT, JM, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MU, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(54) Title: PARTIAL WIG

(54) 発明の名称: 部分ウィッグ



(57) Abstract: The purpose of the present invention is to provide a partial wig with which it is possible to save the labor of wearing and prevent floating after wearing. The partial wig 1 is constituted by comprising: a wig base 2 disposed on the skin side of the head; a pseudo-hair group 3 which is a collection of pseudo-hairs provided on the surface of the wig base 2; and a wig-base-holding part 4 which is provided on the rear surface of the wig base 2 and catches the natural hair H grown to the skin. The wig base 2 is formed in such a shape that the longitudinal direction of the wig base 2 extends along the dividing line W of the head when the partial wig 1 is worn. The wig-base-holding part 4 is formed in such a shape that the natural hair H is tangled by a pressing force toward the skin.

(57) 要約: 装着の手間を省くと共に装着後の浮き上がりを防止することが可能な部分ウィッグを提供することを目的とする。部分ウィッグ1は、頭部における地肌側に配置されるウィッグベース2と、ウィッグベース2の表面に設けられる擬毛の集まりである擬毛群3と、ウィッグベース2の裏面に設けられて地肌に生える地毛Hを捕捉するウィッグベース保持部4と、を備えて構成されている。ウィッグベース2は、部分ウィッグ1が装着された際に当該ウィッグベース2の長手方向が頭部の分け目Wに沿ってのびる形状に形成されている。また、ウィッグベース保持部4は、地肌に向けた押圧力により地毛Hが絡みつ়形状に形成されている。

[続葉有]

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, CV, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SC, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, ME, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

規則4.17に規定する申立て:

- 一 不利にならない開示又は新規性喪失の例外に関する申立て (規則4.17(v))

添付公開書類:

- 一 国際調査報告 (条約第21条(3))

明 細 書

発明の名称：部分ウィッグ

技術分野

[0001] 本発明は、部分ウィッグに関する。

背景技術

[0002] 人の頭部における頭髮の一部のボリューム感を増すためとして、下記特許文献1に開示されるような部分ウィッグが知られている。

特許文献1では、このような部分ウィッグに用いられるウィッグ用固定ピンが開示されている。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2020-169412号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] しかしながら、特許文献1に開示されたウィッグ用固定ピンを用いて部分ウィッグを頭髮（地毛）に固定しようとする、その装着に手間がかかったり、また、装着後に部分ウィッグが浮き上がったという状況であった。

[0005] 本発明は、このような状況に鑑みてなされたものであり、装着の手間を省くと共に装着後の浮き上がりを防止することが可能な部分ウィッグを提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0006] 上記目的を達成するため、本発明の一態様の部分ウィッグは、
頭部における地肌側に配置される裏面及び当該裏面の反対側に配置される表面を有するウィッグベースと、
前記ウィッグベースの前記表面に設けられる擬毛の集まりである擬毛群と、
、

前記ウィッグベースの前記裏面に設けられて前記地肌に生える地毛を捕捉するウィッグベース保持部と、

を備える部分ウィッグであって、

前記ウィッグベースは、

前記部分ウィッグが装着された際に当該ウィッグベースの長手方向が前記頭部の分け目に沿ってのびる形状に形成され、

前記ウィッグベース保持部は、

前記地肌に向けた押圧力により前記地毛が絡みつく形状に形成されている。

発明の効果

[0007] 本発明によれば、装着の手間を省くと共に装着後の浮き上がりを防止することが可能な部分ウィッグを提供することができる。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]本発明の一実施形態に係る部分ウィッグの装着前後の例を示す図である。

[図2]左側は図1の部分ウィッグをウィッグベースの表面側から見た図、真ん中は部分ウィッグをウィッグベースの裏面側から見た図、右側は部分ウィッグの構成を示す図である。

[図3]左側は図1の部分ウィッグをウィッグベースの表面側から見た拡大斜視図、真ん中は部分ウィッグをウィッグベースの裏面側から見た拡大斜視図、右側はウィッグベースの裏面の拡大斜視図である。

[図4]左側はウィッグベースの表面側に擬毛を植え付けている様子を示す図、真ん中は擬毛を植え付けた後のウィッグベースの裏面側の状態を示す図、右側は仕上げのカットの様子を示す図である。

[図5]擬毛の根元の立ち上がりをつくる様子を示す図であって、左側はコームを横刻みに動かしている状態の図、真ん中は立ち上げ前の拡大図、右側は立ち上げ後の拡大図である。

[図6]左側はウィッグベース保持部の拡大斜視図、右側はウィッグベース保持

部の構成を示す概略図である。

[図7]ウィッグベース保持部を交換している様子を示す図である。

[図8]部分ウィッグの生え際をより自然に見せる例の図であって、左側は部分ウィッグをウィッグベースの裏面側から見た図、真ん中はウィッグベースとウィッグベース保持部の拡大図、右側は部分ウィッグの生え際をより自然に見せるためにウィッグベース及びウィッグベース保持部の夫々の一端同士が長手方向にズレた状態に配設された様子を示す図である。

[図9]左側はウィッグベース及びウィッグベース保持部の夫々の一端同士が図8のズレた状態に配設されていない場合の図、右側は図8のズレた状態に配設されて生え際がより自然に見える場合の図である。

[図10]ショートタイプの部分ウィッグの使い方に係る図であって、部分ウィッグの擬毛群が、ウィッグベースの表面の前記長手方向の第1端部側に設けられる第1の長さの擬毛の集まりと、当該第1端部の反対側の第2端部側に設けられる、第1の長さよりも短い第2の長さの擬毛の集まりと、を有している状態を示す図である。

[図11]上側はショートタイプの部分ウィッグを本来のショートタイプとして使用する例を示す図、下側はショートタイプの部分ウィッグでありながらロングタイプとして使用する例を示す図である。

[図12]部分ウィッグのカラー展開に係る図であって、左側は擬毛群がライトブラウンの部分ウィッグを示す図、真ん中は擬毛群がダークブラウンの部分ウィッグを示す図、右側は擬毛群がブラックの部分ウィッグを示す図である。

[図13]上側はショートタイプの部分ウィッグの使用前後の例を示す図、下側はロングタイプの部分ウィッグの使用前後の例を示す図である。

[図14]部分ウィッグの装着方法の例を示す図（部分ウィッグの前後を確認する様子の図、部分ウィッグをユーザの分け目に乗せる様子を示す図、部分ウィッグを地肌に向けて押圧する様子を示す図、擬毛群をユーザの地毛になじませる様子を示す図、及び全体を整える様子を示す図）である。

[図15]部分ウィッグの使用方法に関する図（部分ウィッグの外し方の例を示す図、及び部分ウィッグの取り扱いについての例を示す図）である。

[図16]部分ウィッグのお手入れ方法の例を示す図である。

発明を実施するための形態

[0009] 以下、本発明の実施形態について、図面を用いて説明する。

[0010] 図1は、本発明の一実施形態に係る部分ウィッグの装着前後の例を示す図である。

図1では、部分ウィッグ1の装着前のユーザU1の様子を図Z1Aに示し、装着後の様子は図Z1Bに示す。

[0011] 本実施形態の部分ウィッグ1は、白髪隠し専用のコンパクトなウィッグを一例に挙げたものである（白髪隠し専用としているが、一例であるものとする。即ち、毛染め後にのびた地毛を隠す目的であってもよいものとする）。

部分ウィッグ1は、トータルビューティの一環として、いくつになっても気持ちが明るくアクティブに活動するために、誰でも簡単にきれいに変身することができ、毎日負担なく使うことができるというコンセプトで、白髪隠し特化型の最小・最軽量、ピンやクリップがないものとして提供する。

例えば、女性にとって大変負担の大きい美容問題は、一度生え出すと繰り返さなければならない白髪染めである（女性に限るものではない）。しかも、その白髪染めのスパンは、歳を追うごとに短くなり、働く女性にとって時間やお金もかかる大変な作業になる。

その負担をコンパクトなウィッグ、即ち部分ウィッグ1で毎日誰にも簡単に使えて、白髪染めの回数を極端に減らすことができるように実現している。

[0012] 髪はひと月に1cmのびると言われており、分け目Wの白髪にあっては、ひと月で2cmのびると言われている。

部分ウィッグ1は、本実施形態において4cm乃至5cmの、分け目Wの白髪を隠すことができるように設定されている。

多くの女性は、分け目Wの白髪が1cmでものびると精神的に嫌になり、

2週間乃至3週間に1度のペースで白髪染めをされている。

本実施形態では、部分ウィッグ1を使用することにより、2週間乃至3週間に1度のペースの白髪染めを、少なくとも2ヶ月ごとに延ばすことができ、経済的負担、時間的負担、髪や頭皮への負担を大きく軽減することができる。そして、それだけではなく、加齢と共に知らず知らずのうちに薄くなってしまった顔周りの抜け毛もカバーすることができ、瞬間に若見えも実現することができる。

部分ウィッグ1は、子育てや仕事、社会貢献に大きな力を発揮することが期待され、特に限定するものでないが、これからの女性の新しいライフスタイルへの提案をすることができる。

[0013] 部分ウィッグ1は、以下(1)乃至(9)のような特徴を有する(詳細は別途説明する)。

(1) 前述の特許文献1に開示されたウィッグ用固定ピンやクリップが存在しない。

(2) 後述のウィッグベース保持部を用いることで、引っかかる、つれるなどの不快感がなく、誰でも分け目Wに載せて押すだけで、しっかりと地毛(「自毛」と読み替えてもよい)Hに絡んでズレることはない。

(3) コンパクトであるものの、白髪が一番目立つ分け目Wを中心に生え際の白髪をしっかりと隠す大きさを提供することができ、さらには軽量であると共に誰でも馴染みやすく、毎日使うことができる。

(4) あえて遊び毛や立ち上がりをつくっており、どのような髪質の方であっても違和感なく使うことができる。

(5) 衛生面、耐久性、軽量化を考慮して人工毛を使用しており、自分自身でお手入れを簡単にすることができる。

(6) 地毛Hとの接点となる後述のウィッグベース保持部は、自分自身で取り外しや付け替えを簡単に行うことができ、さらに地毛Hが絡みつく形状に形成されていることから、ズレたり、外れたりすることが極めて起こり難く、外す際には、持ち上げるだけで簡単に外すことができる。

(7) 部分ウィッグ1は、3種類の色と2種類の太さの人工毛を使用して提供することができる。また、部分ウィッグ1は、人工毛を使用することで、上述の衛生面、耐久性、軽量化を考慮する他、オーダーウィッグとは比較にならない安価なものとして提供することができる。

(8) 部分ウィッグ1は、ここでは白髪隠しを目的とするため、軽さと毛量をあえて少なくすることができ、誰の地毛Hに載せても馴染みやすく、少しの毛量だからこそ顔周りの薄毛を自然にカバーして、若返りを実現することができる。

(9) 以上のような特徴を有する部分ウィッグ1を使用することで、ユーザU1は、素早く変身することができる(所謂チャチャッと変身することができる)。

[0014] 図2は、左側が図1の部分ウィッグをウィッグベースの表面側から見た図、真ん中が部分ウィッグをウィッグベースの裏面側から見た図、右側が部分ウィッグの構成を示す図である。

[0015] 部分ウィッグ1の構成を示す図Z2Cにおいて、部分ウィッグ1は、ウィッグベース2と、擬毛群3と、ウィッグベース保持部4と、を備えて構成されている。

ウィッグベース2は、頭部における地肌側に配置されるものである。

また、擬毛群3は、ウィッグベース2に植えつけるようにして設けられる擬毛(上記人工毛)の集まりである。

また、ウィッグベース保持部4は、地肌に生える地毛H(図1参照)を捕捉するものである。

[0016] ウィッグベース2及びウィッグベース保持部4は、部分ウィッグ1をウィッグベース2の裏面側から見た図Z2Bに示すように、ウィッグベース2に対してウィッグベース保持部4が着脱自在に取り付けられている。

また、ウィッグベース2及びウィッグベース保持部4は、部分ウィッグ1をウィッグベースの表面側から見た図Z2Aに示すように、擬毛群3によって略全体が隠れてしまうような配置や構造になっている。

[0017] 図3は、左側が図1の部分ウィッグをウィッグベースの表面側から見た拡大斜視図、真ん中が部分ウィッグをウィッグベースの裏面側から見た拡大斜視図、右側がウィッグベースの裏面の拡大斜視図である。

[0018] 部分ウィッグ1をウィッグベース2の表面側から見た拡大斜視図Z3Aに示すように、ウィッグベース2及びウィッグベース保持部4は、図2でも説明したが、擬毛群3によって略全体が隠れてしまうような配置になっている。

ウィッグベース2及びウィッグベース保持部4は、部分ウィッグ1をウィッグベース2の裏面側から見た拡大斜視図Z3Bに示すように、ウィッグベース2に対してウィッグベース保持部4が取り付けられるようになっている。

ウィッグベース2に対するウィッグベース保持部4の取り付けに関し、図3では、ウィッグベース保持部4の一端4aがウィッグベース2の後述の前端2cの位置に合わせるように（前端2cの近傍に）取り付けられているが、この限りでないものとする（図8を参照しながら後述する）。

[0019] ウィッグベース2の裏面の拡大斜視図Z3Cに示すように、ウィッグベース2の前側となり、かつ、ウィッグベース2の短手方向に沿ってのびる前端2c（ウィッグベース2の長手方向の一端である前端2c）は、後述の後端2d（図4参照）と比べると、真っ直ぐな部分を有するように形成されている。

本実施形態において、前端2cは、真っ直ぐな部分を有しており、後端2dは、略円弧状に形成されている。

このような形状の違いにより、前端2cがある側が部分ウィッグ1の「前」であることを瞬時に把握することができる。

また、前端2cに真っ直ぐな部分を持たせ、かつ、少なくとも前端2cを含めて擬毛を植え付けることで、部分ウィッグ1は、自然な生え際の部分を形成することができる。

[0020] 本実施形態では、前端2cにおいて、後述する表側ネット2bのみならず

裏側ネット 2 a にも擬毛が植え付けられている。具体的には、ウィッグベース 2 の前端 2 c を隠すように擬毛が植え付けられている。なお、擬毛（人工毛）の集まりが擬毛群 3 であるものとする。

擬毛を表側ネット 2 b のみならず裏側ネット 2 a にも植え付けることで、裏側ネット 2 a 及び表側ネット 2 b は、例えば接着剤を用いずに重ね合わせ状態に固定することができる。

[0021] 図 4 は、左側がウィッグベースの表面側に擬毛を植え付けている様子を示す図、真ん中が擬毛を植え付けた後のウィッグベースの裏面側の状態を示す図、右側が仕上げのカットの様子を示す図である。

なお、必要に応じて図 3 も参照するものとする。

[0022] ウィッグベース 2 は、この裏面となる裏側ネット 2 a と、当該裏面の反対となる表面の表側ネット 2 b と、を備えて構成されている。

ウィッグベース 2 は、裏側ネット 2 a 及び表側ネット 2 b の二枚合わせとなっている。二枚合わせにすることで、ウィッグベース 2 は、その耐久性を高めることができる。

[0023] 裏側ネット 2 a 及び表側ネット 2 b は、同じ外形で帯状となるように形成されている。

裏側ネット 2 a 及び表側ネット 2 b は、前端 2 c が真っ直ぐな部分を有するように形成されている。また、後端 2 d が略円弧状に形成されている。

[0024] 裏側ネット 2 a 及び表側ネット 2 b は、共にメッシュ構造を有しており、表側ネット 2 b は、地肌に合わせた色（例えばベージュ色）を有している。裏側ネット 2 a は、表側ネット 2 b と比較して暗い色（例えば黒色）を有している。裏側ネット 2 a 及び表側ネット 2 b は、上記の色を採用することにより、実際の地肌（頭皮）の雰囲気になら近づけて、自然な見え方になるようにしている。

裏側ネット 2 a 及び表側ネット 2 b は、共にメッシュ構造であることから、ウィッグベース 2 を柔軟性があるものとすることができる。

裏側ネット 2 a 及び表側ネット 2 b としては、編み目が極めて小さいもの

が採用されている（例えば薄くて耐久性のある所謂マイクロネットが好ましい）。

[0025] 図4の左側の図Z4Aに示すように、ウィッグベース2の表面となる表側ネット2bの側に擬毛が植え付けられている。擬毛は、表側ネット2bの編み目（メッシュ構造）に刺し通すようにして植え付けられている。なお、擬毛の詳細については後述する。

図4の真ん中の図Z4Bに示すように、擬毛を植え付けた後のウィッグベース2の裏面側の状態は、ウィッグベース2の全周にわたり擬毛が表側ネット2bのみならず裏側ネット2aにも植え付けられている状態になる。

図4の右側の図Z4Cに示すように、仕上げのカットの仕方は、隙をつくるように手作業で丁寧にカットを行うようになっている。

部分ウィッグ1は、隙をつくるようにカットを行うことから、擬毛群3が地毛H（図1参照）に馴染みやすくなっている。これにより、部分ウィッグ1を装着した際のナチュラルな仕上がりを実現することができる。

[0026] 仕上げのカットの仕方に関し、本実施形態では、分け目W（図1参照）の位置に合わせて少なくとも配設される短擬毛（所謂アホ毛）と、当該短擬毛よりも長い長擬毛と、を含むようにカットされている。これにより、部分ウィッグ1を装着した際のナチュラルな仕上がりを実現することができる。

[0027] 擬毛群3は、擬毛の集まりであって、ここでは人毛でなく人工毛が採用されている。擬毛群3は、本来の髪の毛の動きや柔らかさを再現するために、2種類の太さの擬毛を混ぜ込むようにして形成されている。

本実施形態の擬毛は、リアルな髪質や艶感を再現した人工毛が採用されている。

[0028] なお、人工毛は、退色し難いという利点を有している（人毛は、色素が破壊されているため退色が早い）。また、人工毛は、形状記憶加工にてスタイルをキープすることができるという利点を有している（人毛は、スタイル保持が短時間）。また、人工毛は、強度が高くダメージによる切れ毛が少ないという利点を有している（人毛は、損傷しやすく切れやすい）。また、人工

毛は、熱処理により艶調整が可能であるという利点を有している（人毛は、栄養がいかないために艶がなくなってしまう）。また、人工毛は、シャンプーのみで十分であって、自然乾燥（人毛より水分吸水率が低い）が可能、ブラッシングでスタイル再現可能という利点を有している（人毛はスタイリングが必要、）。即ち、人工毛であることから、お手入れが簡単である。また、人工毛は、耐熱性に優れる（約180℃（スタイリングは130℃以下））という利点を有している（人毛は、約110℃の耐熱）。

[0029] 人工毛のみを使用することで、衛生面を良好にすることができる（人毛又はミックス毛を採用すると、菌の繁殖や臭いといった衛生面の問題が生じる）。

また、人工毛のみを使用することで、耐久性を向上させることができる（栄養が行き渡らなくなった人毛は、耐久性に影響を与え、修理やリセットケアが必要になってしまう）。

また、人工毛のみを使用することで、軽量化を図ることができる。

また、人工毛のみを使用することで、人権問題等に配慮することができる。

以上から、部分ウィッグ1は、長期間使用し続けることができる。言い換えれば、長期間愛用することができる。

[0030] 図5は、擬毛の根元の立ち上がりをつくる様子を示す図であって、左側がコームを横刻みに動かしている状態の図、真ん中が立ち上げ前の拡大図、右側が立ち上げ後の拡大図である。

[0031] 図5の左側の図Z5Aに示すように、コーム（櫛K）を横刻みに動かすと（小刻みに左右に動かすと）、図5の真ん中の図Z5Bに示すように擬毛が倒れている状態から、図5の右側の図Z5Cに示すように擬毛が立ち上がった状態にすることができる（言い換えれば、立ち上がりをつくることができる）。

したがって、部分ウィッグ1を装着した際のナチュラルな仕上がりを実現することができる。

[0032] 図6は、左側がウィッグベース保持部の拡大斜視図、右側がウィッグベース保持部の構成を示す概略図である。

[0033] ウィッグベース保持部4は、図6の左側に示される拡大斜視図Z6Aから分かるように、前述の特許文献1に開示されたウィッグ用固定ピンや図示しないクリップと全く異なる構造を有するものとなっている。

ウィッグベース保持部4は、地肌に向けた押圧力により、地毛Hが絡みつくような形状に形成されている。

また、ウィッグベース保持部4は、一瞬で地毛Hに馴染むことができるような形状に形成されている。

[0034] ウィッグベース保持部4は、図6の右側の拡大斜視図Z6Bに示されるように、ウィッグベース対向部4cと、突起群4dと、両面テープ4eと、を備えて構成されている。

ウィッグベース対向部4cは、ウィッグベース保持部4の長手方向の両端である一端4a及び他端4bを有する帯状に形成されている。

ウィッグベース対向部4cは、ウィッグベース2に対向する第1面4fと、当該第1面4fの反対側に配置される第2面4gと、を有している。ウィッグベース対向部4cは、樹脂製のものである。

[0035] 突起群4dは、ウィッグベース対向部4cの第2面4gから突出する突起の集まりであって、隣り合う突起同士の間に入り込んだ地毛Hが絡みつくように、突起同士の間隔や突起の長さ等が適宜設定されて図示形状に形成されている。

突起同士は、直線的に並んで配置されていてもよいし、千鳥状に並んで配置されていてもよい。

突起群4dにおける夫々の突起の先端4hは、地肌を傷つけないような形状に形成されている。本実施形態における突起の先端4hは、当該突起の幅よりも大きな直径を有する球状に形成されている（隣り合う球状の先端4h同士の間からの、地毛Hの抜けをし難くすることができる。地肌に向けた押圧力によって、隣り合う球状の先端4h同士の間を地毛Hが通過する。言い

換えれば、上記押圧力の反対向きの力が加わらないと地毛Hが抜け出さない）。

なお、突起の先端4 hは、図示のような球状に限らず、突起の幅と同じ直径を有する半球状に形成されていてもよい。また、端部がUターンするような略J字状の突起に形成されていてもよい。

[0036] 両面テープ4 eは、ウィッグベース対向部4 cの第1面4 fに設けられている。

なお、ウィッグベース2に対しウィッグベース保持部4が取り付けられる前は、両面テープ4 eに剥離紙（剥離シート）が設けられている。

[0037] 図7は、ウィッグベース保持部を交換している様子を示す図である。

ウィッグベース保持部4は、ウィッグベース対向部4 cの第1面4 fに両面テープ4 eが設けられている構成であることから、ウィッグベース保持部4を交換している様子を示す図Z 7 Aから分かるように、ウィッグベース保持部4自体の交換は非常に容易になっている。

このようにウィッグベース保持部4は、交換可能であることから、部分ウィッグ1を清潔に保つことができる。

[0038] 図8は、部分ウィッグの生え際をより自然に見せる例の図であって、左側は部分ウィッグをウィッグベースの裏面側から見た図、真ん中はウィッグベースとウィッグベース保持部の拡大図、右側は部分ウィッグの生え際をより自然に見せるためにウィッグベース及びウィッグベース保持部の夫々の一端同士が長手方向にズレた状態に配設された様子を示す図である。

[0039] 図8の左側の図Z 8 Aに示すように、部分ウィッグ1は、ウィッグベース2に対してウィッグベース保持部4が取り付けられたものとなっている。

ウィッグベース保持部4は、図8の真ん中の図Z 8 Bに示すように（円C 1に示すように）、自身の外形位置をウィッグベース2の外形位置に重ね合わせるように取り付けてもよいし、図8の右側の図Z 8 Cに示すように（円C 2に示すように）、ウィッグベース2に対して（前端2 cに対して）寸法Lだけ後方にズレて取り付けてもよい。

部分ウィッグ1は、ウィッグベース保持部4がズレて取り付けられることにより、部分ウィッグ1を装着した際の生え際をより自然に見せることができる（図9を参照しながら後述する）。

なお、上記寸法Lは1cm程が好ましいが、これに限定されないものとする。

[0040] 図9は、左側がウィッグベース及びウィッグベース保持部の夫々の一端同士が図8のズレた状態に配設されていない場合の図、また、右側が図8のズレた状態に配設されて生え際がより自然に見える場合の図である。なお、ここでは図8も参照するものとする。

[0041] ウィッグベース保持部4の外形位置をウィッグベース2の外形位置に重ね合わせるように取り付けると、部分ウィッグ1を装着したユーザU2は、図9の左側の図Z9Aに示すように見える。これでも生え際はより自然に見えるが、図9の右側の図Z9Bに示すように（円C3に示すように）、ウィッグベース保持部4をウィッグベース2に対して（前端2cに対して）寸法Lだけ後方にズレて取り付けると、少し後ろから前髪となる擬毛が流れるようになり、その結果、より自然な印象をつくることができる。

[0042] 図10は、ショートタイプの部分ウィッグの使い方に係る図であって、部分ウィッグの擬毛群が、ウィッグベースの表面の前記長手方向の第1端部側に設けられる第1の長さの擬毛の集まりと、当該第1端部の反対側の第2端部側に設けられる、第1の長さよりも長い第2の長さの擬毛の集まりと、を有している状態を示す図である。

[0043] 図10における図Z10Aに示すショートタイプの部分ウィッグ1は、擬毛群3が全体的に後述するロングタイプのものと比べて毛足が短くなっている。

このようなショートタイプの部分ウィッグ1は、ウィッグベース2の前側に設けられる第1の長さの擬毛の集まり3Sと、ウィッグベース2の後側に設けられて第1の長さの擬毛の集まり3Sよりも毛足が長い第2の長さの擬毛の集まり3Lと、を有している。

[0044] ショートタイプの部分ウィッグ1は、部分ウィッグ1の装着方向を前後逆にすると、ロングタイプのもの（但し図13を参照して後述するロングタイプのものとは異なる）としても使用することができる。

具体的には図11を参照しながら後述するが、第1の長さの擬毛の集まり3Sを前にして装着すると、本来のショートタイプとして使用することができ、逆に第2の長さの擬毛の集まり3Lを前にして装着すると、ショートタイプの部分ウィッグ1でありながらロングタイプとして使用することができる。

ショートタイプの部分ウィッグ1でありながらロングタイプとして使用する場合には、前髪を流すスタイルをとることができる。

図10の例について、もう少し詳しく以下で説明する。

[0045] 図11は、この図の上側がショートタイプの部分ウィッグを本来のショートタイプとして使用する例を示す図、下側はショートタイプの部分ウィッグでありながらロングタイプとして使用する例を示す図である。

[0046] 図11の上側に示す、部分ウィッグ1を本来のショートタイプとして使用する図Z11A及び図Z11Bから分かるように、ユーザU1、ユーザU2の夫々の前髪は短い。これに対し、図11の下側に示す、ショートタイプの部分ウィッグ1でありながらロングタイプとして使用する図Z11C及び図Z11Dから分かるように、ロングタイプとして使用すればユーザU1、ユーザU2の夫々の前髪は、流すスタイルをとることができる。

[0047] 図12は、部分ウィッグのカラー展開に係る図であって、左側は擬毛群がライトブラウンの部分ウィッグを示す図、真ん中は擬毛群がダークブラウンの部分ウィッグを示す図、右側は擬毛群がブラックの部分ウィッグを示す図である。

[0048] 一般的に既製品のウィッグは、擬毛が単色となっているものが多い。これに対し本実施形態の部分ウィッグ1は、擬毛の色を3色で展開している。

即ち、図12の左側の図Z12Aに示す、擬毛群3がライトブラウン、真ん中の図Z12Bに示す、擬毛群3がダークブラウン、及び右側の図Z12

Cに示す、擬毛群3がブラックの3色で展開した部分ウィッグ1を本実施形態では提供している（3色に限定するものではない）。

本実施形態の部分ウィッグ1は、擬毛群3の色を3色で展開することにより、多少の色の違う髪色にも対応することができる。また、このような色の展開の部分ウィッグ1は、使えば使う程、地毛H（自毛）に馴染ませることができる。

[0049] 図13は、上側はショートタイプの部分ウィッグの使用前後の例を示す図、下側はロングタイプの部分ウィッグの使用前後の例を示す図である。

[0050] ここまでショートタイプの部分ウィッグ1を例に挙げて説明してきたが、毛足の長い擬毛群3を有するロングタイプの部分ウィッグ1もある。

部分ウィッグ1は、ショートタイプやロングタイプ、擬毛群3の色を組み合わせる中から適宜選ぶことができる。

図13の上側に示す、ショートタイプの部分ウィッグ1を使用した例の図Z13Aを見ると、ユーザU3の分け目Wが目立たなくなり、後頭部も綺麗なフォルムになっていることが分かる。

また、図13の上側に示す、ショートタイプの部分ウィッグ1を使用した例の図Z13Bを見ると、ユーザU1は、ハイライトを入れたような立体的なスタイルに仕上がっていることが分かる。

また、図13の下側に示す、ロングタイプの部分ウィッグ1を使用した例の図Z13Cを見ると、ユーザU4の分け目W及びつむじの白髪が隠れると共に、ふんわりボリュームアップしていることが分かる。

また、図13の下側に示す、ロングタイプの部分ウィッグ1を使用した例の図Z13Dを見ると、ユーザU5は、ハーフアップのアレンジがナチュラルになっていることが分かる。

[0051] 図14は、部分ウィッグの装着方法の例を示す図（部分ウィッグの前後を確認する様子の図、部分ウィッグをユーザの分け目に乗せる様子を示す図、部分ウィッグを地肌に向けて押圧する様子を示す図、擬毛群をユーザの地毛になじませる様子を示す図、及び全体を整える様子を示す図）である。

[0052] 部分ウィッグ1の装着方法としては、部分ウィッグ1の前を確認する様子の図Z14A及び部分ウィッグ1の後を確認する様子の図Z14Bに示すように、ウィッグベース2の前端2c（真っ直ぐな部分を有する）がある方が部分ウィッグ1の前になり、略円弧状の後端2dがある方が部分ウィッグ1の後になる。即ち、ウィッグベース2の端部の形状を見るだけで、すぐに部分ウィッグ1の前後を確認することができる。

[0053] 部分ウィッグ1の前後を確認した後は、部分ウィッグ1をユーザU1の分け目Wに乗せる様子を示す図Z14Cから分かるように、例えばウィッグベース2の前端2c及び後端2dを夫々持って前後させながら部分ウィッグ1の前髪位置を合わせるようにする。この位置合わせは、地毛Hと部分ウィッグ1の前髪とをコーム（櫛K）でとかして馴染ませてから行うことがよい。

[0054] 位置が決まったら、図Z14Dに示すように部分ウィッグ1を地肌に向けて押圧する。この押圧は、軽くプッシュする程度でよい。部分ウィッグ1は、軽くプッシュする程度で十分に密着感が得られる。

部分ウィッグ1を押圧した後は、部分ウィッグ1を押さえつつ図Z14Eに示すように、擬毛群3と地毛Hとの境目をコーム（櫛K）でとかすと、また、図Z14Fに示すように、髪の毛の流れに沿ってブラッシングすると、擬毛群3がユーザU1の地毛Hに馴染み、部分ウィッグ1の装着が完了する。

[0055] 図15は、部分ウィッグの使用方法に関する図（部分ウィッグの外し方の例を示す図、及び部分ウィッグの取り扱いについての例を示す図）である。

部分ウィッグ1の外し方の例を示す図Z15Aから分かるように、前側から部分ウィッグ1をめくるように後方に向かってゆっくりと矢印方向に持ち上げると簡単に部分ウィッグ1を取り外すことができる。

言い換えれば、前述の特許文献1に開示されたウィッグ用固定ピンやクリップと比較して簡単に取り外すことができる。

[0056] 部分ウィッグ1は、取り扱いについての例を示す図Z15B及び図Z15Cに示すように、仮に擬毛がウィッグベース保持部4の突起群4dに絡んだ場合であっても、例えばコーム（櫛K）の柄で簡単に剥がすことができる。

即ち、部分ウィッグ１の取り扱いが簡単である。

[0057] 図１６は、部分ウィッグのお手入れ方法の例を示す図である。

部分ウィッグ１のお手入れ方法としては、先ず、図Ｚ１６Ａに示すようにシャンプーで押し洗いをし、次に図Ｚ１６Ｂに示すように濯いだ後、図Ｚ１６Ｃに示すようにタオルドライをすると共に、図Ｚ１６Ｄに示すように上から下にブラッシングする。そして最後に、形が崩れないように置いて自然乾燥すればよい（部分ウィッグ１は、速乾性に優れたもので構成されていることから、ドライヤーを用いなくても乾燥させることができる）。

[0058] 以上、図１乃至図１６を参照して説明してきたように、部分ウィッグ１は、装着の手間を省くと共に装着後の浮き上がりを防止することができる。

[0059] 本実施形態の説明から分かるように、本発明によれば、従来のウィッグ用固定ピンやクリップが存在しない部分ウィッグ１を提供することができる。

また、ウィッグベース保持部４を用いることで、しっかりと地毛Ｈに絡んでズレを防止することができる。

また、コンパクトであるものの、白髪が一番目立つ分け目Ｗを中心に生え際の白髪をしっかりと隠す大きさを提供することができ、さらには軽量であると共に誰でも馴染みやすく、毎日使うことができる。

また、あえて遊び毛や立ち上がりをつくっていることから（仕上げのカットの仕方においてつくる短擬毛（所謂アホ毛）等）、どのような髪質の方であっても違和感なく使うことができる。

また、擬毛として人工毛を使用することで、衛生面、耐久性、軽量化を考慮することができると共に、ユーザ自身のお手入れを簡単にすることができる。

また、ウィッグベース保持部４の着脱を自在にしていることから、取り外しや付け替えを簡単に行うことができる。

また、ウィッグベース保持部４は、地毛Ｈが絡みつく形状に形成されていることから、ズレたり、外れたりすることが極めて起こり難く、外す際には、持ち上げるだけで簡単に外すことができる。

また、擬毛群3に関しては、3種類の色と2種類の太さの人工毛を使用していることから（数は一例であるものとする）、誰にでも合う部分ウィッグ1を提供することができる。

また、特に限定するものでないが、白髪隠しに好適なものとして部分ウィッグ1を提供することができる。

また、誰の地毛Hに載せても馴染みやすいものとして部分ウィッグ1を提供することができる。

また、少しの毛量にすることで、顔周りの薄毛を自然にカバーして、若返りを実現することができる。

また、所謂チャチャッと変身するのに好適なものとして部分ウィッグ1を提供することができる。

[0060] 以上、本発明の一実施形態について説明したが、本発明は、上述の実施形態に限定されるものではなく、本発明の目的を達成できる範囲での変形、改良等は本発明に含まれるものである。

[0061] 上述の本実施形態においては、分け目Wに合わせてウィッグベース2及びウィッグベース保持部4の外形が夫々帯状に形成されていたが、例えばつむじの位置に合わせて使用するのであれば、ウィッグベース2及びウィッグベース保持部4の外形を夫々円形に形成してもよいものとする。

[0062] 以上をまとめると、本発明が適用される部分ウィッグは、次のような構成を有していれば足り、各種各様な実施の形態を取ることができる。

即ち、本発明が適用される部分ウィッグ（例えば図1乃至図3の部分ウィッグ1）は、

頭部における地肌側に配置される裏面（例えば図3の裏側ネット2aが該当）及び当該裏面の反対側に配置される表面（例えば図3の表側ネット2bが該当）を有するウィッグベース（例えば図2乃至図4のウィッグベース2）と、

前記ウィッグベースの前記表面に設けられる擬毛の集まりである擬毛群（例えば図2乃至図4の擬毛群3）と、

前記ウィッグベースの前記裏面に設けられて前記地肌に生える地毛（例えば図1の地毛H）を捕捉するウィッグベース保持部（例えば図3及び図6のウィッグベース保持部4）と、

を備える部分ウィッグであって、

前記ウィッグベースは、

前記部分ウィッグが装着された際に当該ウィッグベースの長手方向が前記頭部の分け目（例えば図1の分け目W）に沿ってのびる形状に形成され、

前記ウィッグベース保持部は、

前記地肌に向けた押圧力（例えば図14の部分ウィッグ1を地肌に向けて押圧する様子）により前記地毛が絡みつく形状（例えば図6及び図15に示すウィッグベース保持部4の形状）に形成されている、

部分ウィッグで足りる。

これにより、装着の手間を省くと共に装着後の浮き上がりを防止することができる。

[0063] また、前記ウィッグベース及び前記ウィッグベース保持部は、夫々、外形が帯状（例えば図2に示す外形）に形成されている、

ことが好ましい。

これにより、分け目の例えば白髪を必要十分に隠すことができる。

[0064] また、前記ウィッグベース及び前記ウィッグベース保持部は、夫々の一端同士が前記長手方向にズレた状態（例えば図8に示す寸法Lだけウィッグベース保持部4が後方にズレた状態）に配設することが可能に形成されている、

ことが好ましい。

これにより、生え際をより自然に見せることができる。

[0065] また、前記ウィッグベース保持部は、前記ウィッグベースに対向する第1面（例えば図6の第1面4f）及び当該第1面の反対側に配置される第2面（例えば図6の第2面4g）を有するウィッグベース対向部（例えば図6のウィッグベース対向部4c）と、当該第2面から突出する突起の集まりであ

り前記地毛が絡みつく突起群（例えば図6の突起群4 d）と、を有する、
ことが好ましい。

これにより、地毛が絡みつく、ウィッグベース保持部のより良い形態を提供することができる。

[0066] また、前記突起群における夫々の前記突起の先端（例えば図6の先端4 h）は、当該突起の幅よりも大きな直径の球状（例えば図6に示す球状）に形成されている、
ことが好ましい。

これにより、例えば装着の際に地肌を傷つけないようにすることができる。
。

[0067] また、前記ウィッグベース保持部の前記第1面は、前記ウィッグベースの前記裏面に対して着脱自在に取り付けられている、
ことが好ましい。

これにより、ウィッグベース保持部の交換を可能にし、部分ウィッグの清潔を保つことができる。

[0068] また、前記擬毛群は、前記分け目の位置に合わせて少なくとも配設される短擬毛（例えば仕上げのカットの仕方においてつくる所謂アホ毛等）と、当該短擬毛よりも長い長擬毛（例えば所謂アホ毛よりも長い擬毛等）と、を含んで構成されている、
ことが好ましい。

これにより、部分ウィッグ1を装着した際のナチュラルな仕上がりを実現することができる。

[0069] また、前記ウィッグベースの前記表面はメッシュ構造（例えば図4の表側ネット2 bの構造）であり、

当該表面は、前記地肌に合わせた色（例えばベージュ色）を有し、
前記裏面は、前記表面に比較して暗い色（例えば黒色）を有する、
ことが好ましい。

これにより、実際の地肌（頭皮）の雰囲気近づけて、自然な見え方にす

ることができる。

- [0070] また、前記擬毛群は、前記ウィッグベースの前記表面の前記長手方向の第1端部側に設けられる第1の長さの擬毛の集まり（例えば図10の第1の長さの擬毛の集まり3S）と、当該第1端部の反対側の第2端部側に設けられる前記第1の長さよりも長い第2の長さの擬毛の集まり（例えば図10の第2の長さの擬毛の集まり3L）と、を有している、
ことが好ましい。

これにより、例えばショートタイプとして使用して前髪をつくったり、逆にロングタイプとして使用して前髪を流すスタイルをとったりすることができる。

- [0071] また、前記ウィッグベースの前記表面の前記長手方向の第1端部側の形状と、当該第1端部の反対側の第2端部側の形状とは異なっている、
ことが好ましい。

これにより、例えば装着の際に部分ウィッグ1の前後を素早く確認することができる。

符号の説明

- [0072] 1・・・部分ウィッグ
2・・・ウィッグベース
2a・・・裏側ネット
2b・・・表側ネット
2c・・・前端
2d・・・後端
3・・・擬毛群
3S・・・第1の長さの擬毛の集まり
3L・・・第2の長さの擬毛の集まり
4・・・ウィッグベース保持部
4a・・・一端
4b・・・他端

4 c . . . ウィッグベース対向部

4 d . . . 突起群

4 e . . . 両面テープ

4 f . . . 第1面

4 g . . . 第2面

4 h . . . 先端

H . . . 地毛

K . . . 櫛

W . . . 分け目

請求の範囲

- [請求項1] 頭部における地肌側に配置される裏面及び当該裏面の反対側に配置される表面を有するウィッグベースと、
前記ウィッグベースの前記表面に設けられる擬毛の集まりである擬毛群と、
前記ウィッグベースの前記裏面に設けられて前記地肌に生える地毛を捕捉するウィッグベース保持部と、
を備える部分ウィッグであって、
前記ウィッグベースは、
前記部分ウィッグが装着された際に当該ウィッグベースの長手方向が前記頭部の分け目に沿ってのびる形状に形成され、
前記ウィッグベース保持部は、
前記地肌に向けた押圧力により前記地毛が絡みつく形状に形成されている、
部分ウィッグ。
- [請求項2] 前記ウィッグベース及び前記ウィッグベース保持部は、夫々、外形が帯状に形成されている、
請求項1に記載の部分ウィッグ。
- [請求項3] 前記ウィッグベース及び前記ウィッグベース保持部は、夫々の一端同士が前記長手方向にズレた状態に配設することが可能に形成されている、
請求項2に記載の部分ウィッグ。
- [請求項4] 前記ウィッグベース保持部は、前記ウィッグベースに対向する第1面及び当該第1面の反対側に配置される第2面を有するウィッグベース対向部と、当該第2面から突出する突起の集まりであり前記地毛が絡みつく突起群と、を有する、
請求項1に記載の部分ウィッグ。
- [請求項5] 前記突起群における夫々の前記突起の先端は、当該突起の幅よりも

大きな直径の球状に形成されている、

請求項 4 に記載の部分ウィッグ。

[請求項6] 前記ウィッグベース保持部の前記第 1 面は、前記ウィッグベースの前記裏面に対して着脱自在に取り付けられている、

請求項 4 に記載の部分ウィッグ。

[請求項7] 前記擬毛群は、前記分け目の位置に合わせて少なくとも配設される短擬毛と、当該短擬毛よりも長い長擬毛と、を含んで構成されている、

請求項 1 に記載の部分ウィッグ。

[請求項8] 前記ウィッグベースの前記表面はメッシュ構造であり、

当該表面は、前記地肌に合わせた色を有し、

前記裏面は、前記表面に比較して暗い色を有する、

請求項 1 に記載の部分ウィッグ。

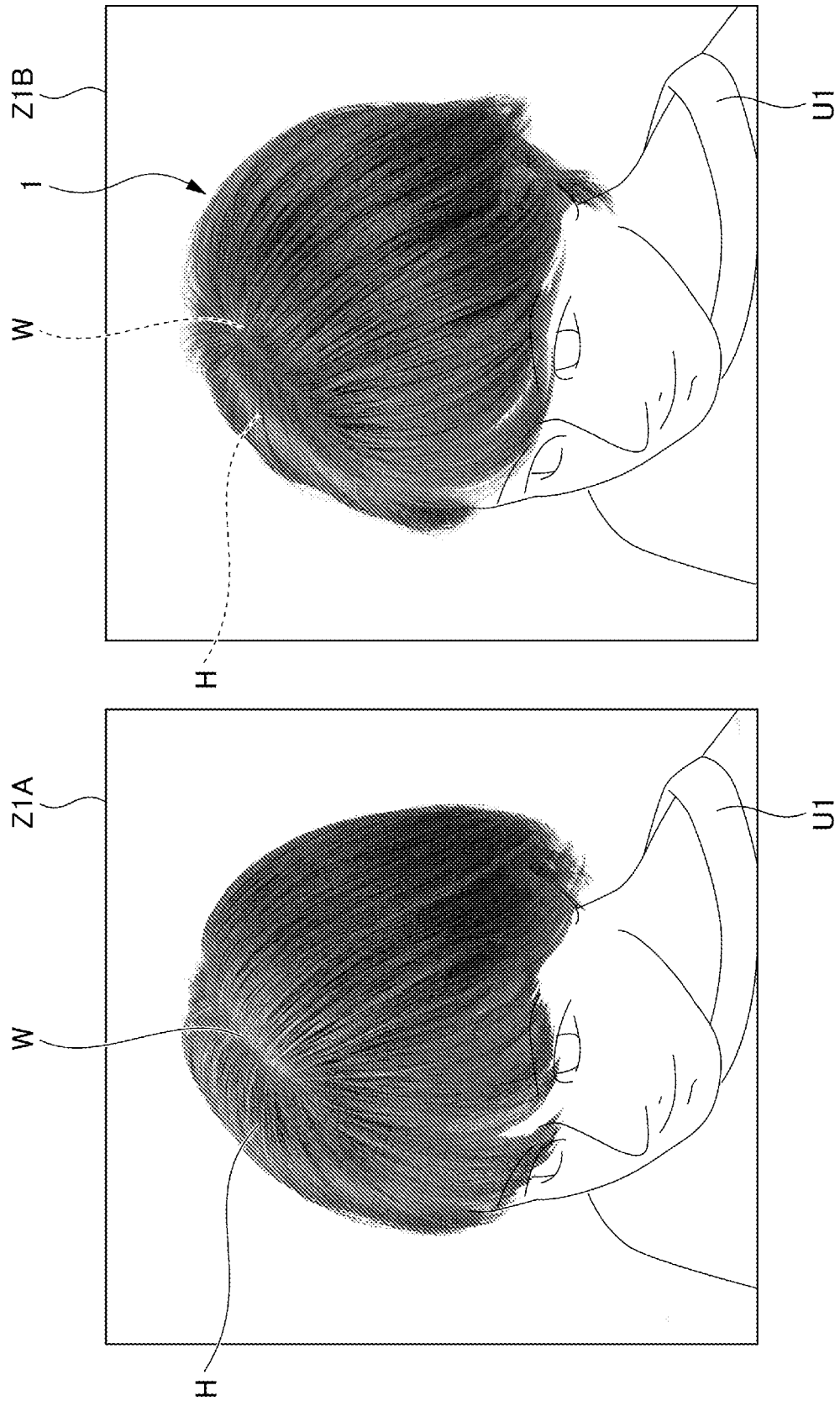
[請求項9] 前記擬毛群は、前記ウィッグベースの前記表面の前記長手方向の第 1 端部側に設けられる第 1 の長さの擬毛の集まりと、当該第 1 端部の反対側の第 2 端部側に設けられる前記第 1 の長さよりも長い第 2 の長さの擬毛の集まりと、を有している、

請求項 1 に記載の部分ウィッグ。

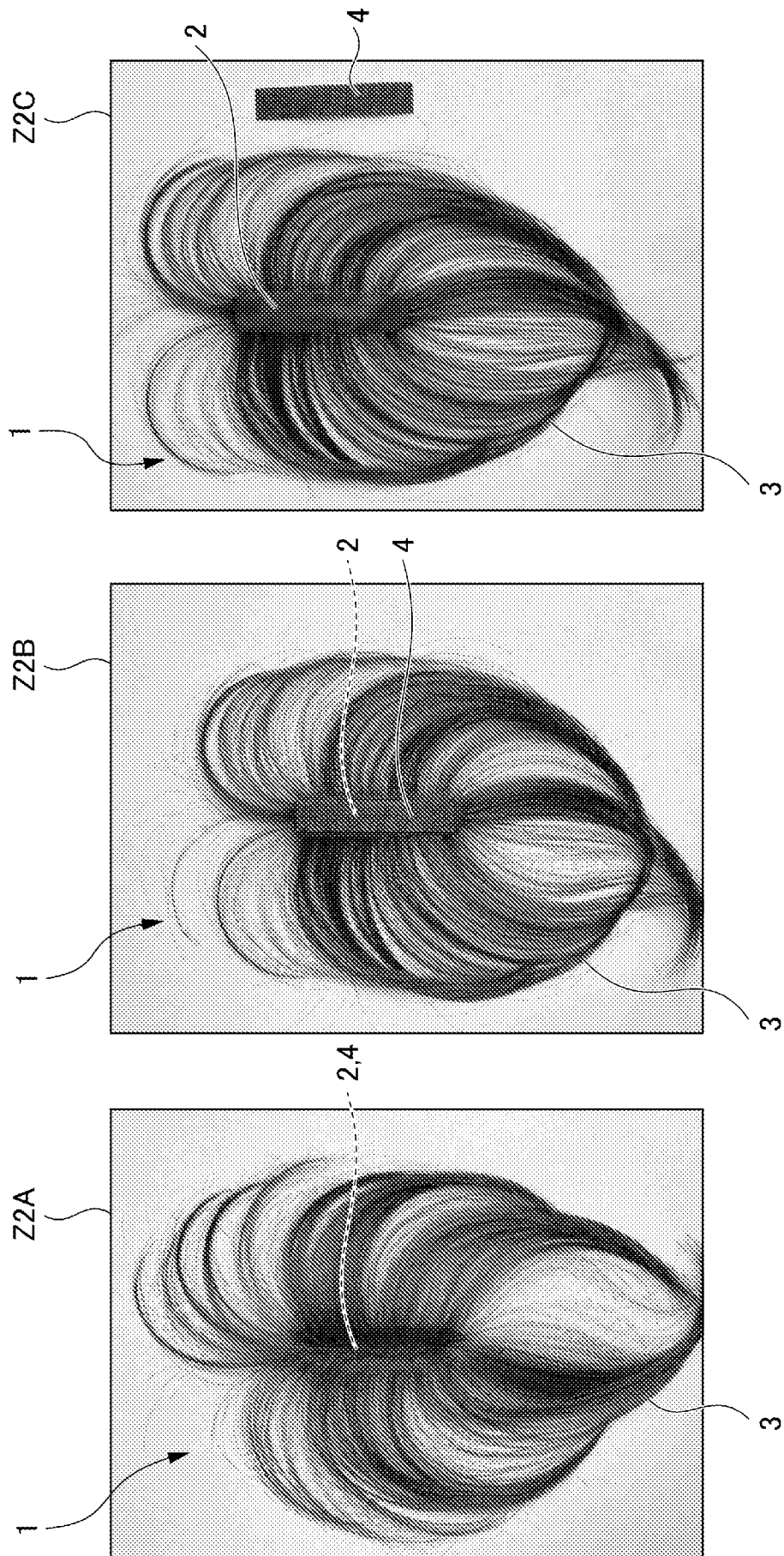
[請求項10] 前記ウィッグベースの前記表面の前記長手方向の第 1 端部側の形状と、当該第 1 端部の反対側の第 2 端部側の形状とは異なっている、

請求項 1 に記載の部分ウィッグ。

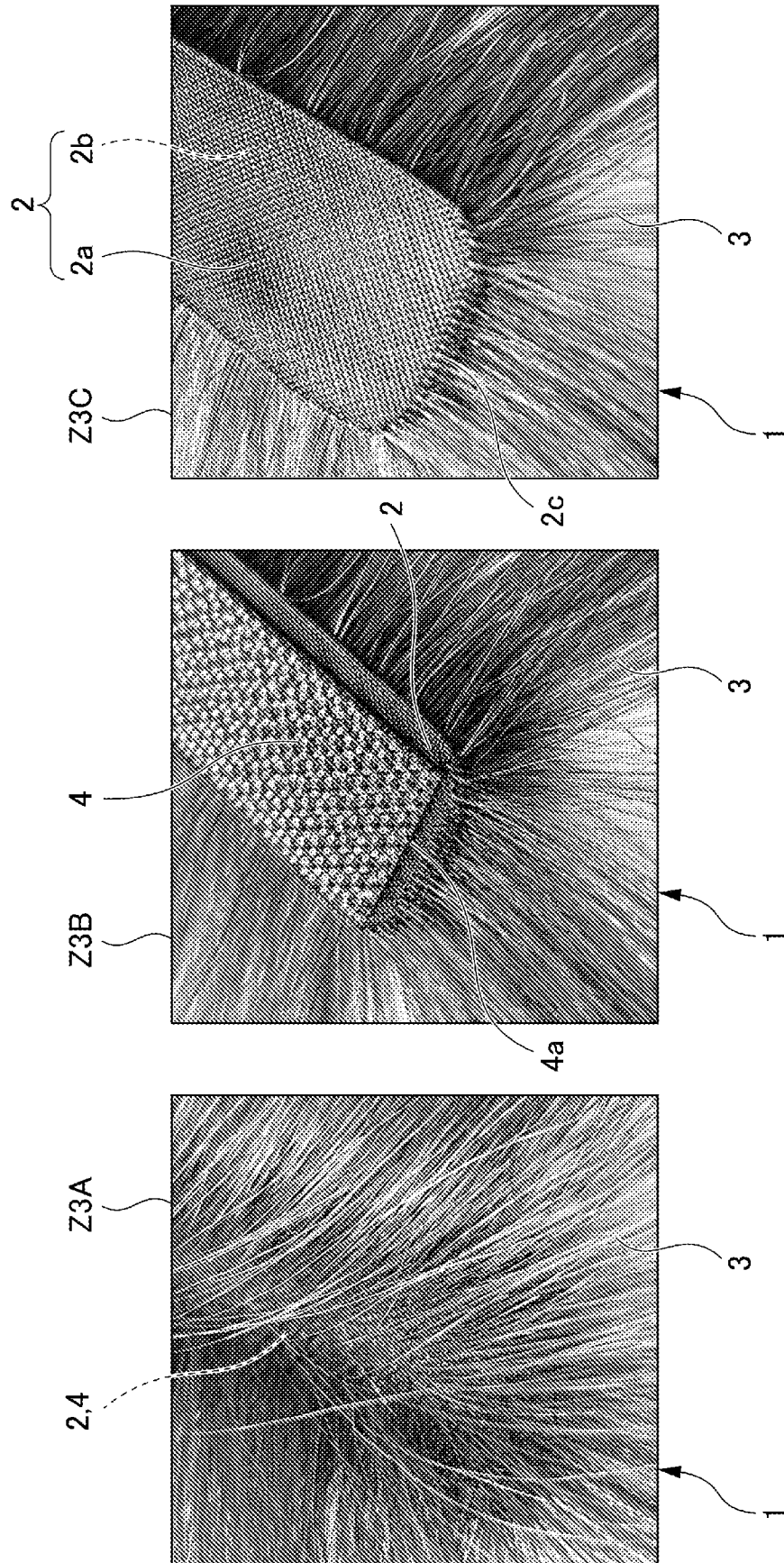
[図1]



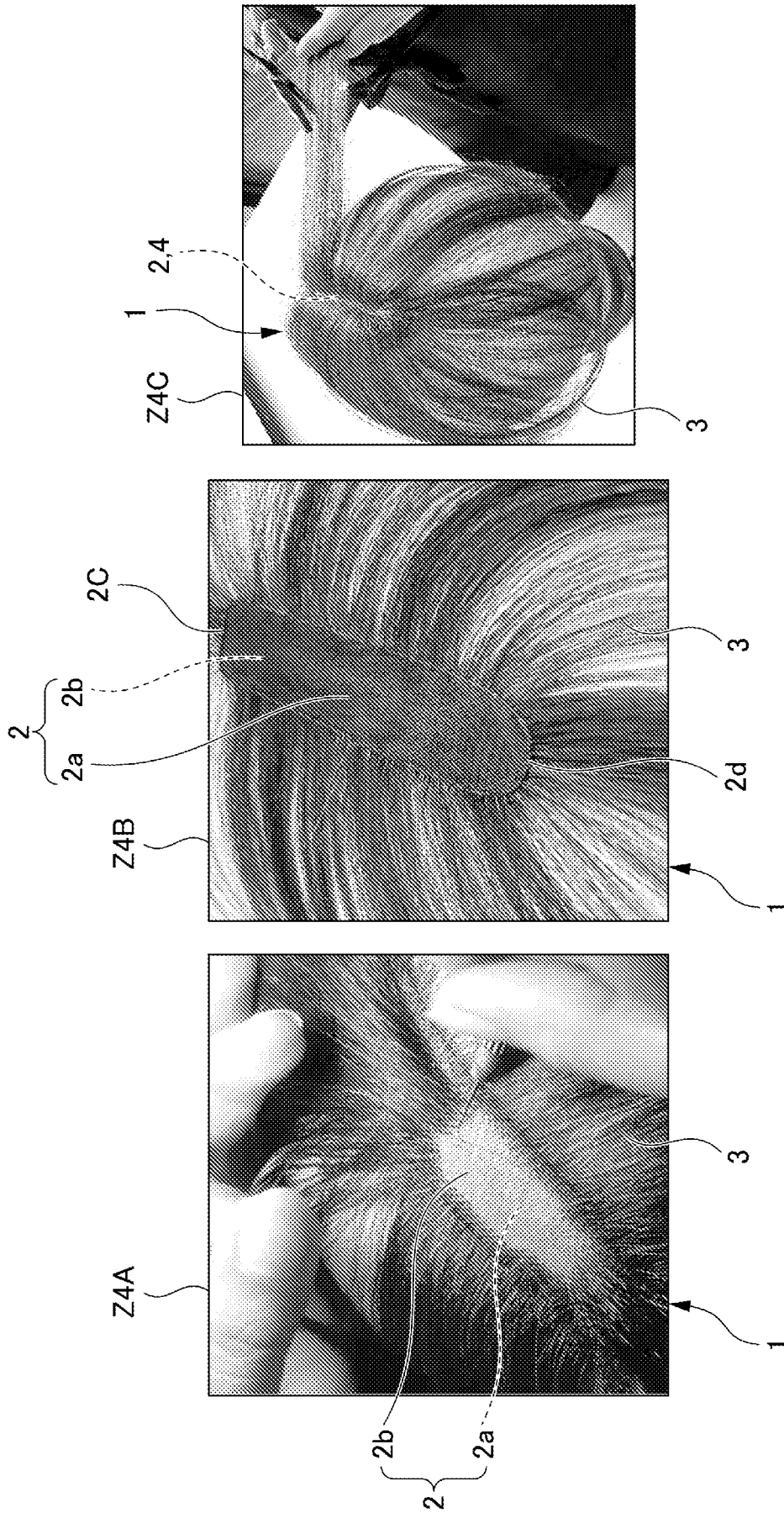
[図2]



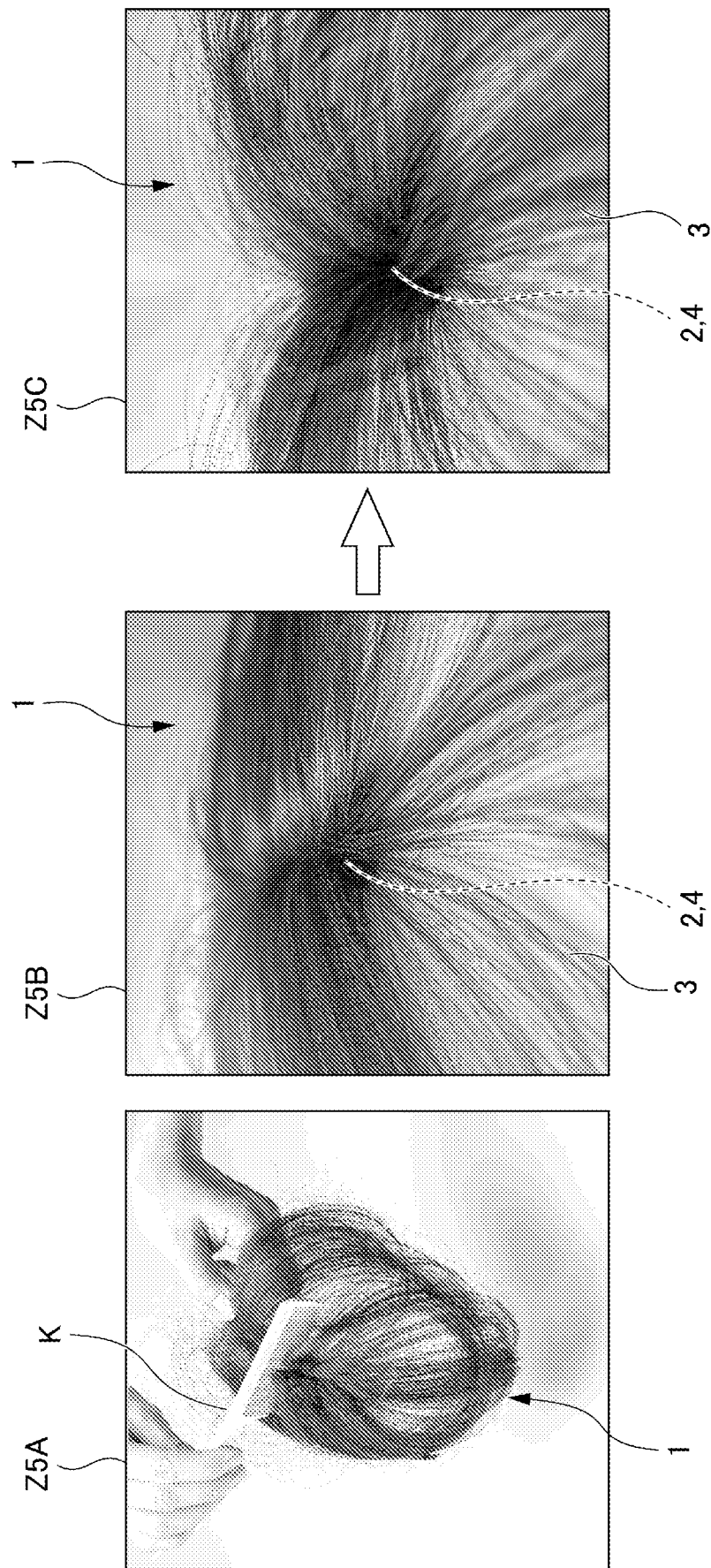
[図3]



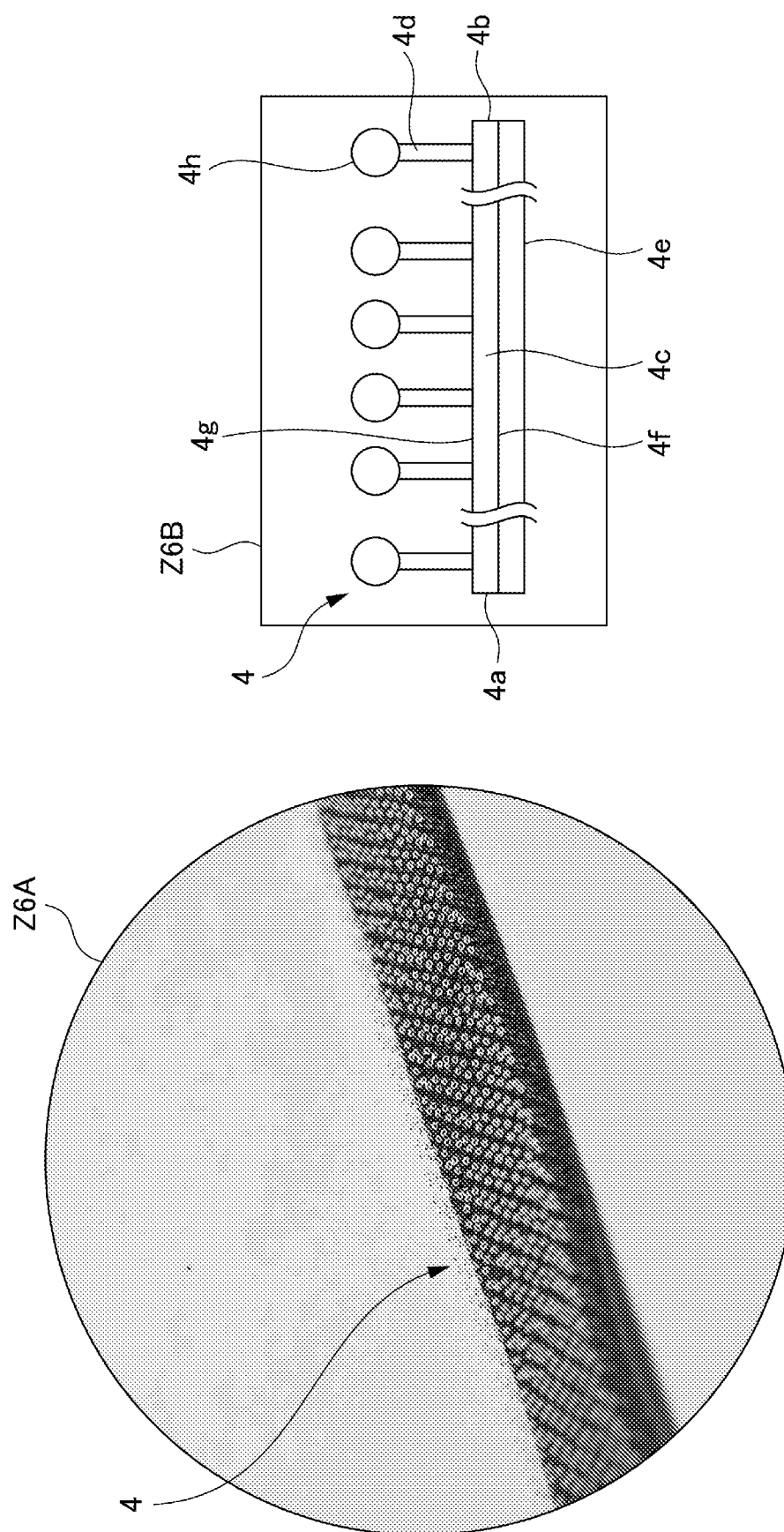
[図4]



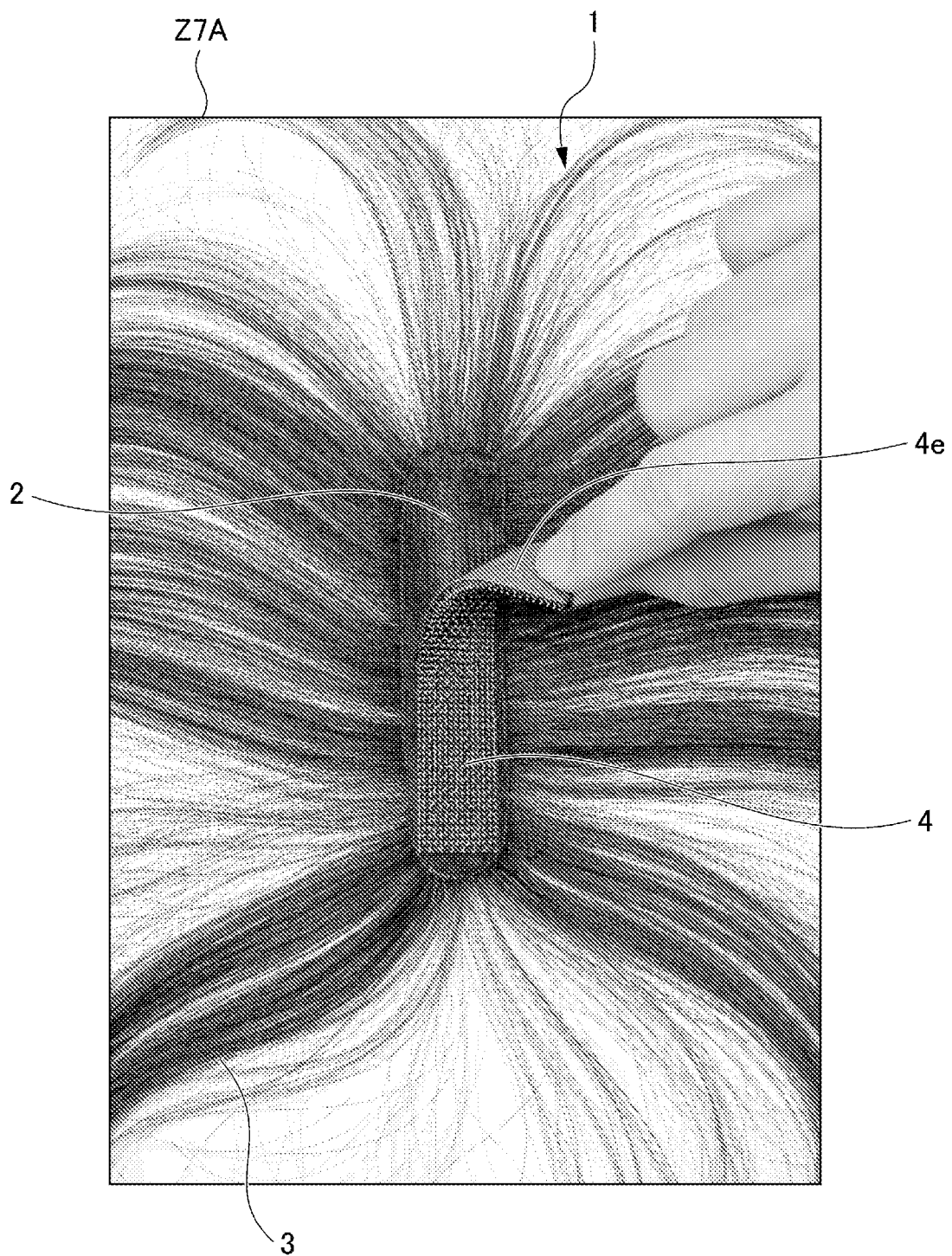
[図5]



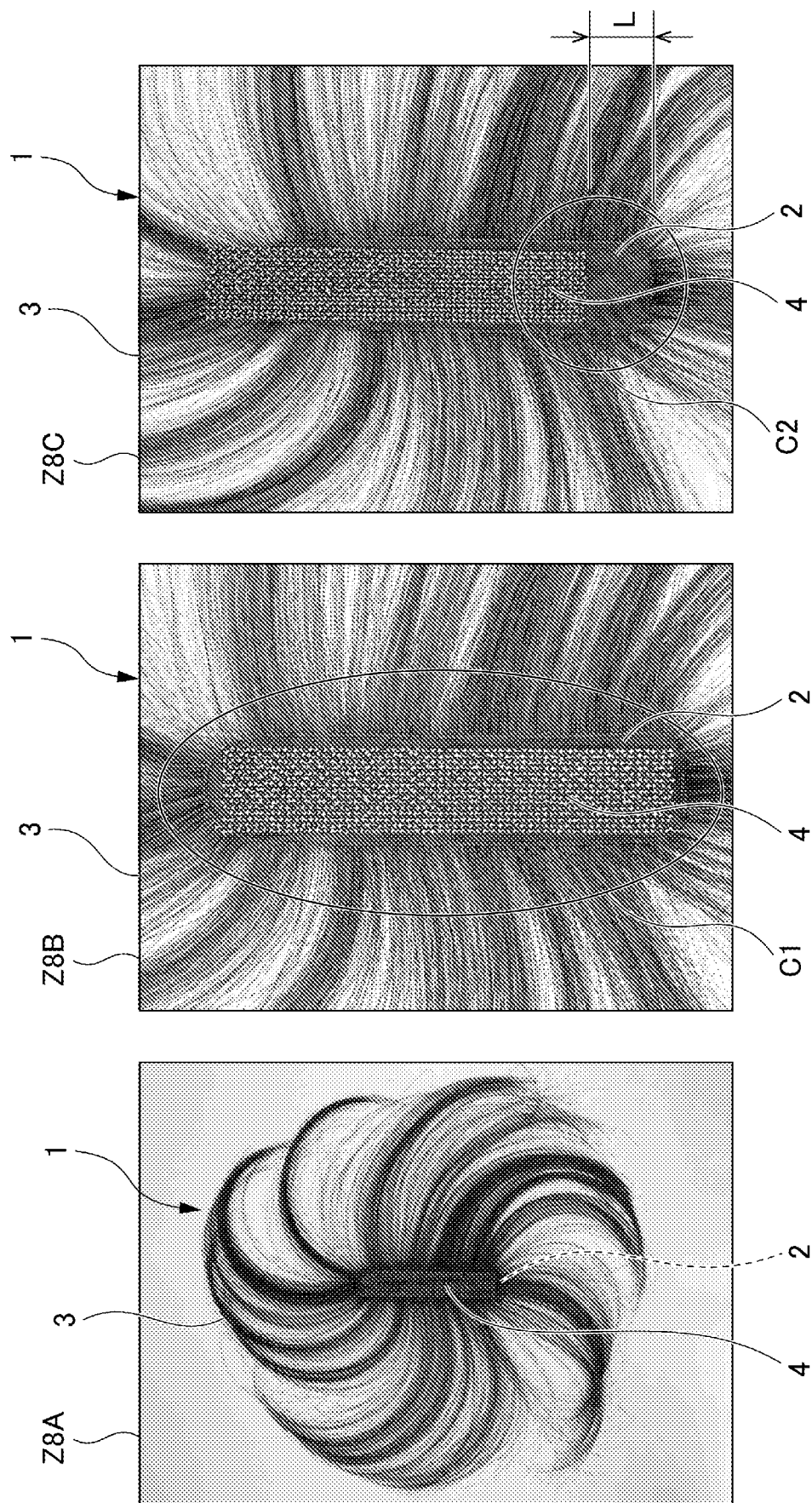
[図6]



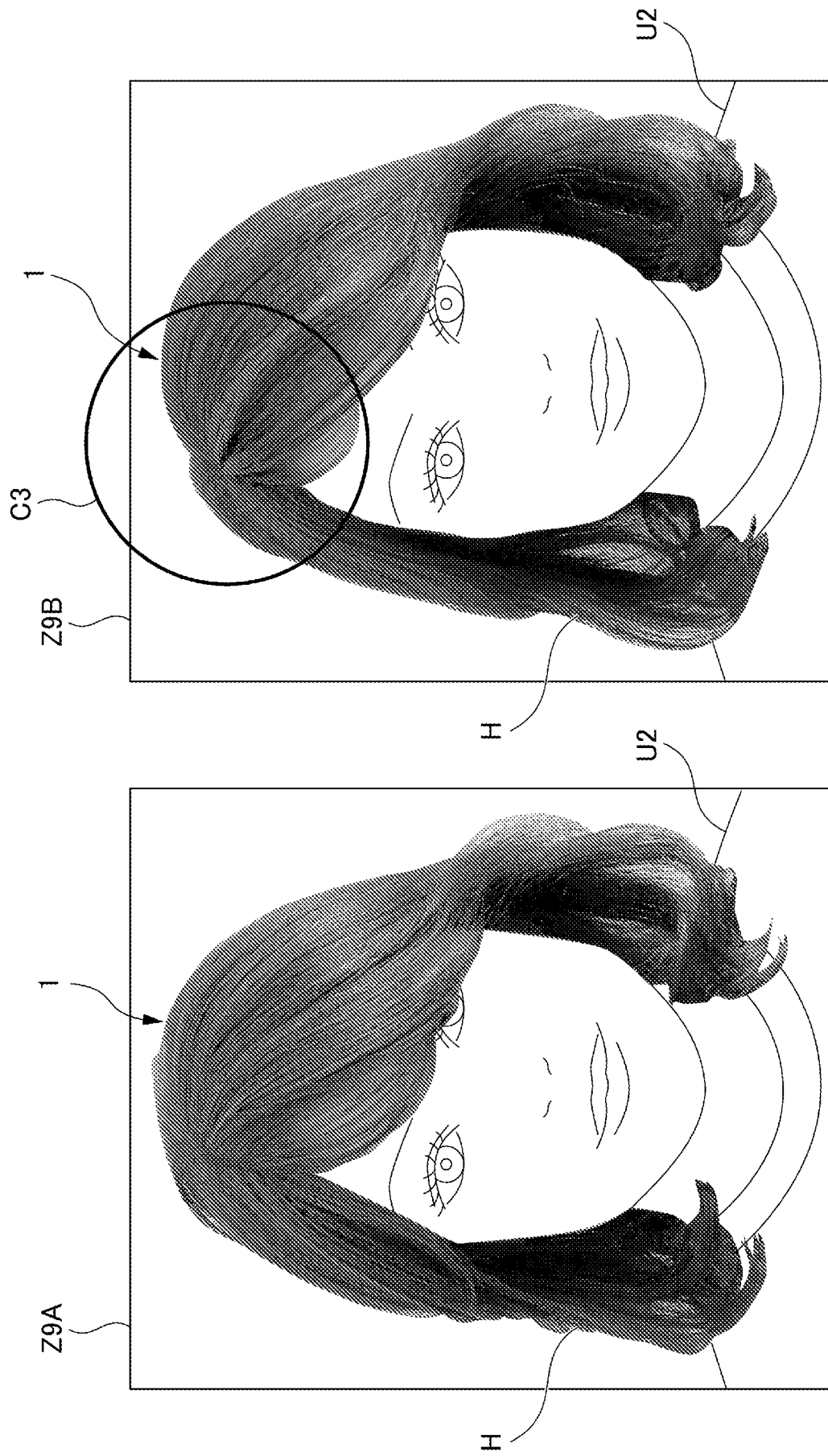
[図7]



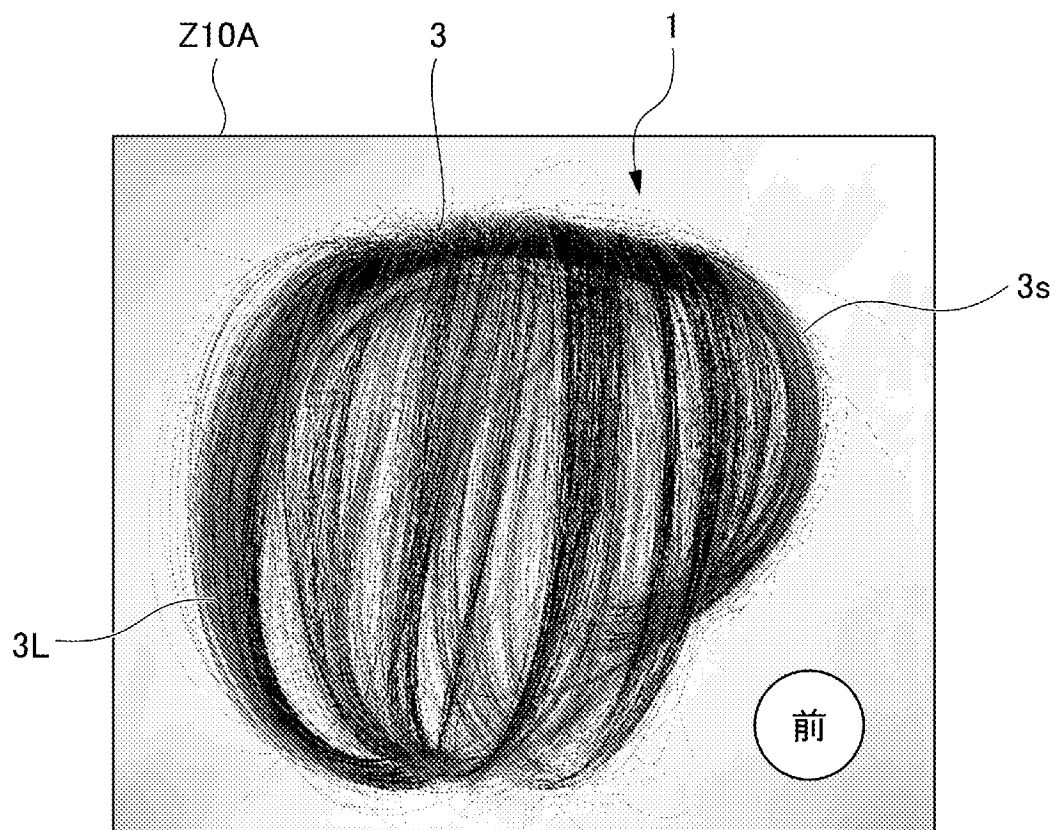
[図8]



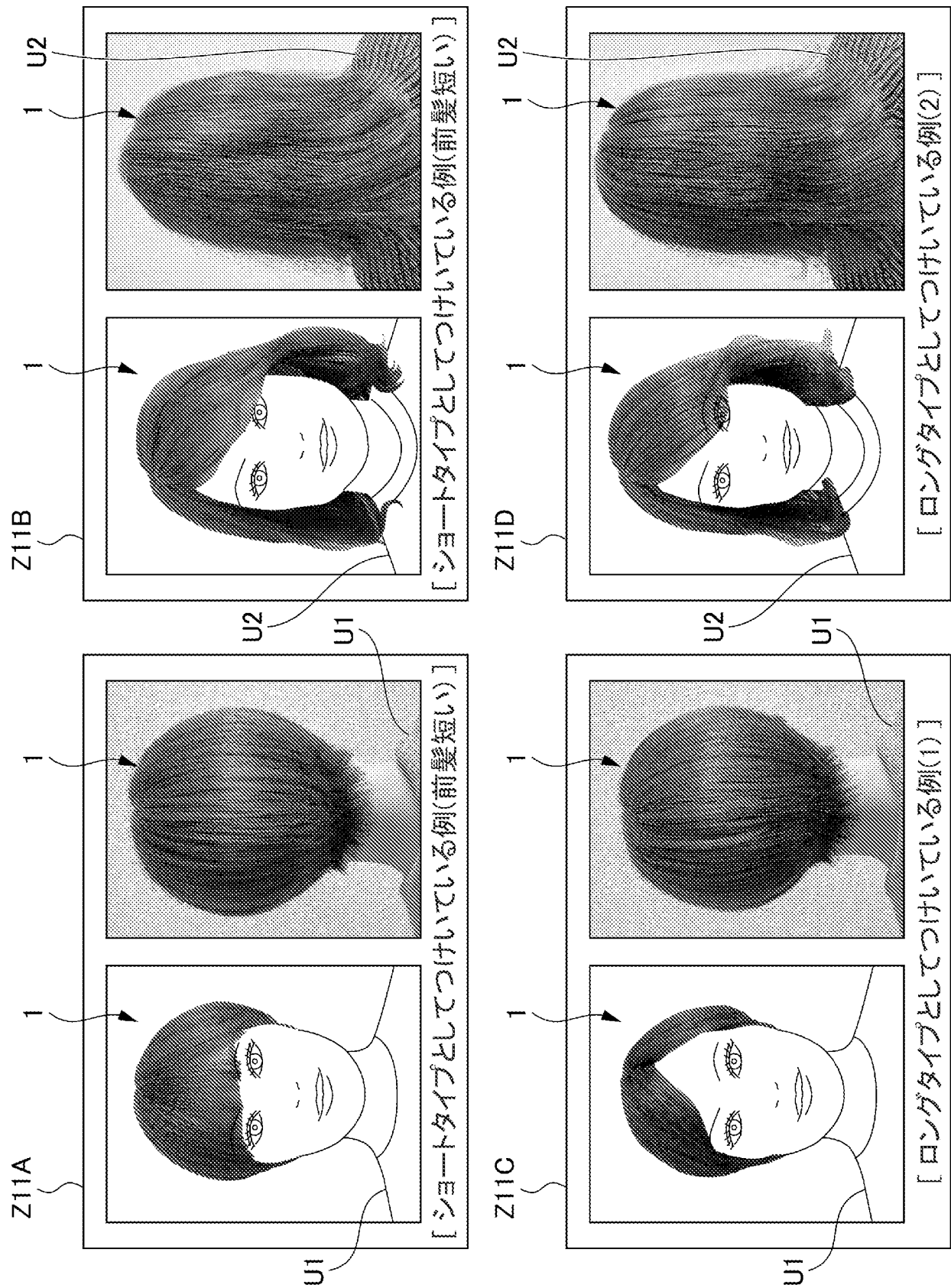
[図9]



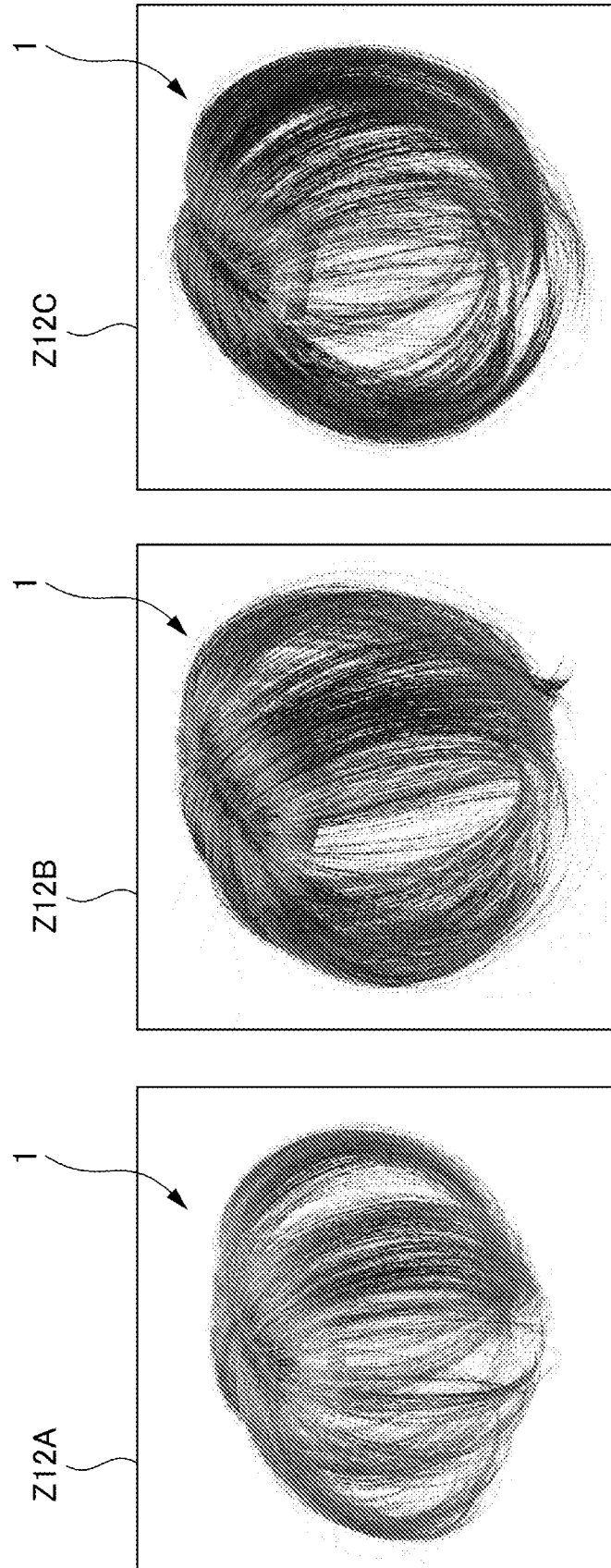
[図10]



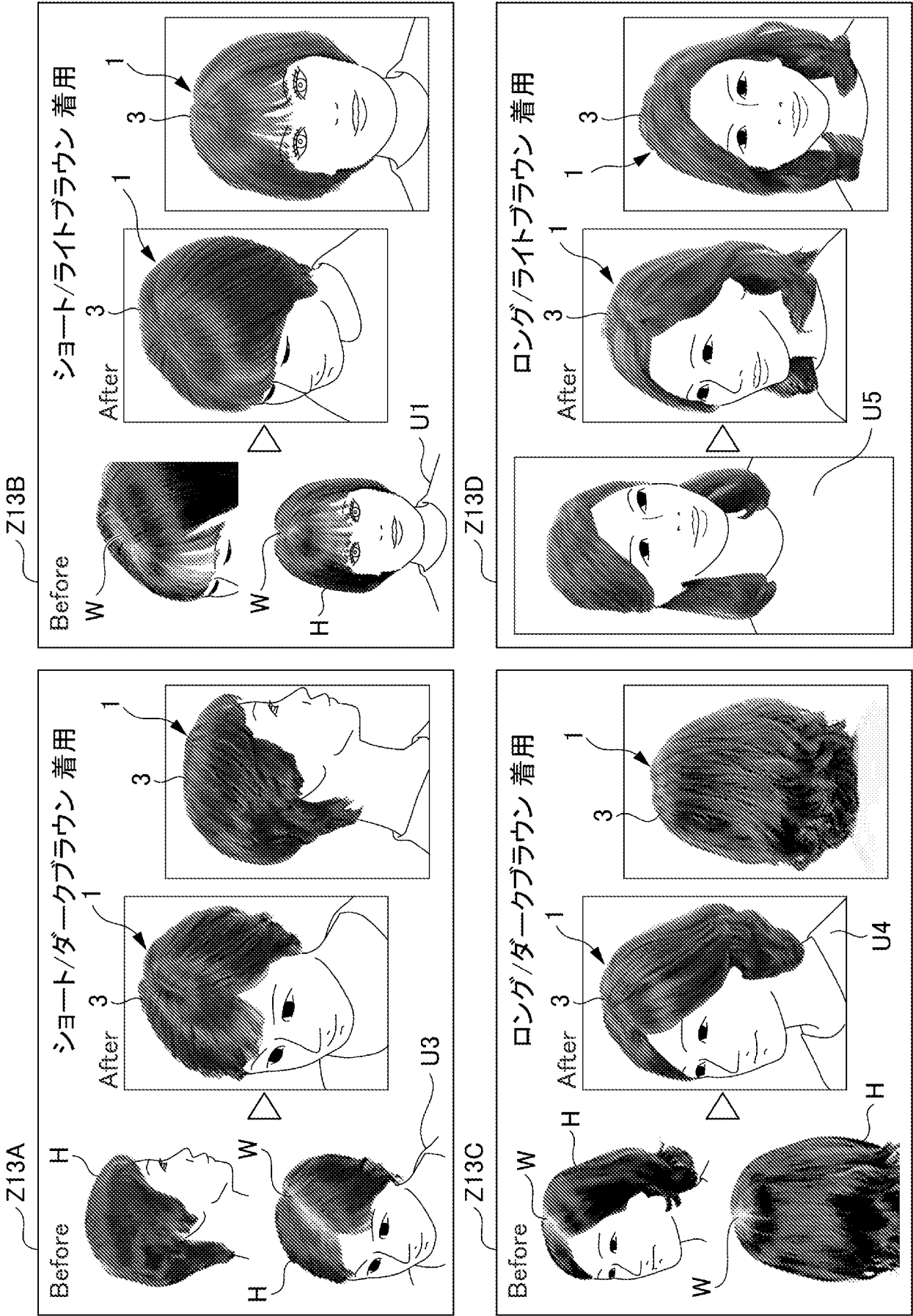
[図11]



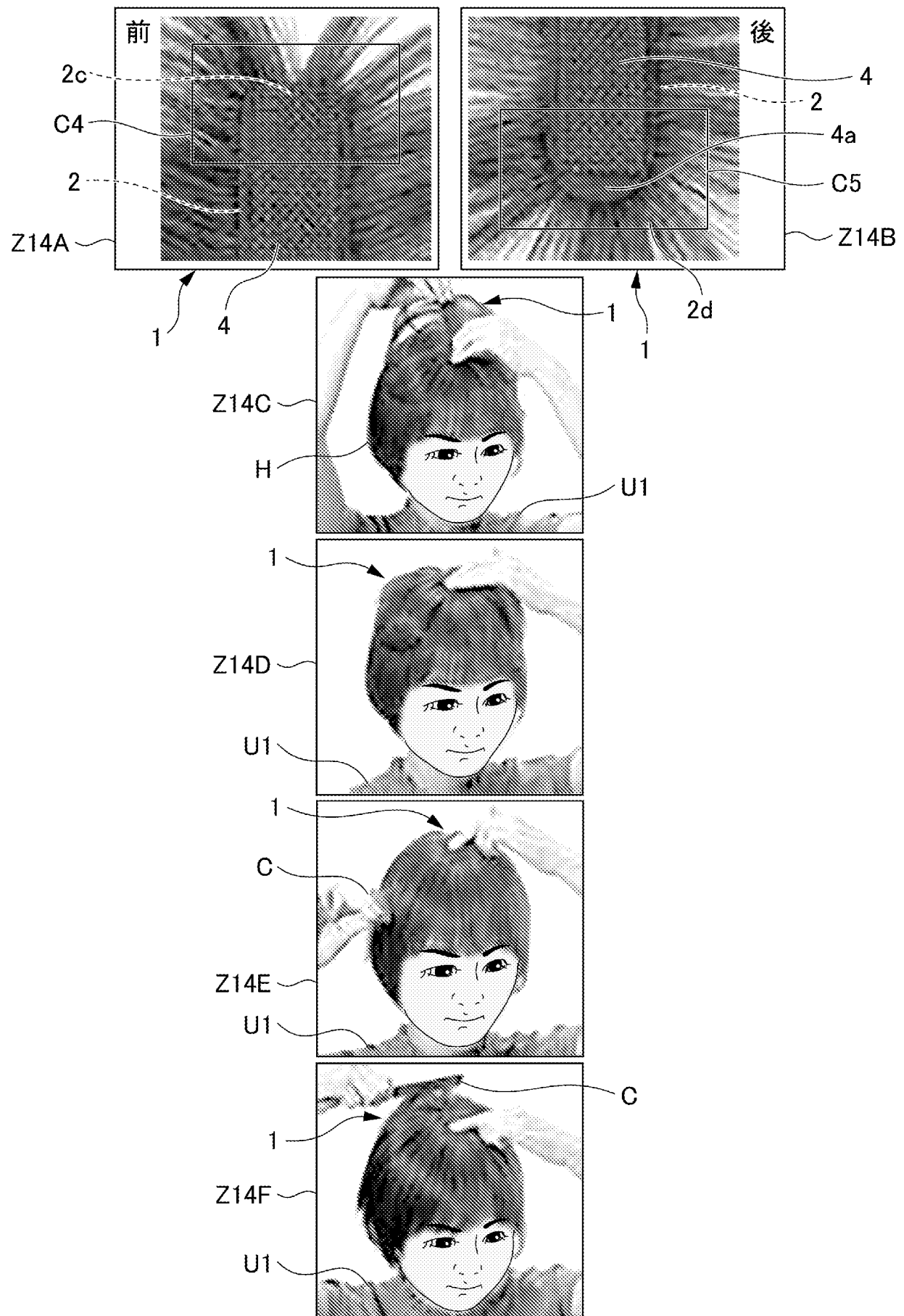
[図12]



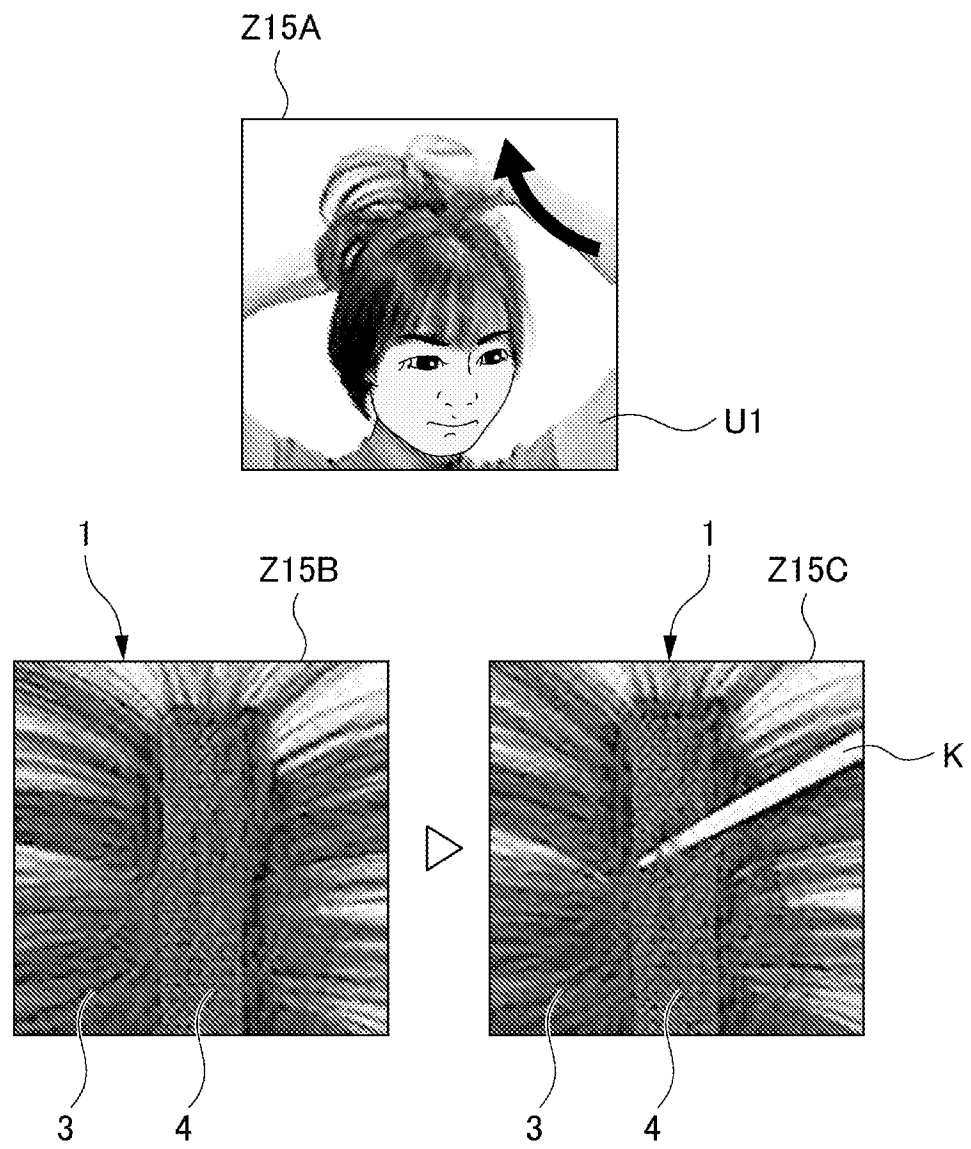
[図13]



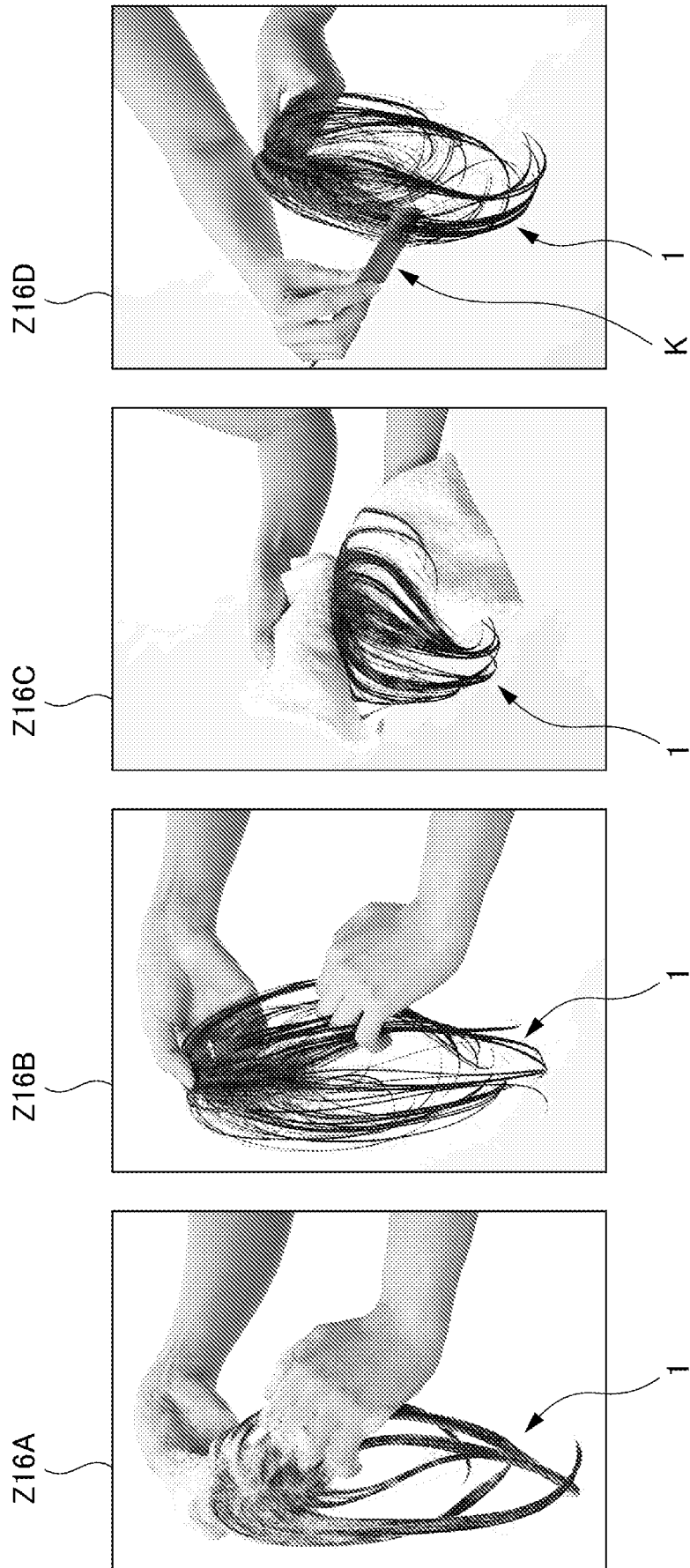
[図14]



[図15]



[図16]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2024/003042

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER A41G 5/00 (2006.01)i; A41G 3/00 (2006.01)i FI: A41G5/00; A41G3/00 D According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) A41G5/00; A41G3/00 Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Published examined utility model applications of Japan 1922-1996 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2024 Registered utility model specifications of Japan 1996-2024 Published registered utility model applications of Japan 1994-2024 Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	US 2018/0125137 A1 (GIL, Jin-Su) 10 May 2018 (2018-05-10) paragraphs [0059]-[0076], [0112]-[0131], [0137]-[0138], fig. 1-4, 7, 12-15, 20	1-4, 6, 8, 10
Y		5, 7, 9
Y	JP 3169344 U (NAKAGAWA KK) 28 July 2011 (2011-07-28) paragraphs [0027]-[0028], fig. 1-3	5
Y	JP 2020-037754 A (NITTCHO YAMATO KK) 12 March 2020 (2020-03-12) paragraphs [0092]-[0093], fig. 7	7
Y	JP 2020-196965 A (UGUISU VENTURE CONSULTING LLC) 10 December 2020 (2020-12-10) paragraph [0029], fig. 13	9
☐ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☒ See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: “A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance “D” document cited by the applicant in the international application “E” earlier application or patent but published on or after the international filing date “L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) “O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means “P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed “T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention “X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone “Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art “&” document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search 19 March 2024		Date of mailing of the international search report 02 April 2024
Name and mailing address of the ISA/JP Japan Patent Office (ISA/JP) 3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915 Japan		Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.
PCT/JP2024/003042

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
US	2018/0125137	A1	10 May 2018	KR 10-2018-0048267 A KR 20-0487950 Y	
JP	3169344	U	28 July 2011	(Family: none)	
JP	2020-037754	A	12 March 2020	US 2020/0068970 A1 paragraphs [0113]-[0114], fig. 7	
JP	2020-196965	A	10 December 2020	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

A41G 5/00(2006.01)i; A41G 3/00(2006.01)i
FI: A41G5/00; A41G3/00 D

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））
A41G5/00; A41G3/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの
日本国実用新案公報 1922-1996年
日本国公開実用新案公報 1971-2024年
日本国実用新案登録公報 1996-2024年
日本国登録実用新案公報 1994-2024年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	US 2018/0125137 A1 (GIL Jin-Su) 10.05.2018 (2018-05-10) 段落0059-0076、0112-0131、0137-0138、図1-4、7、12-15、20	1-4, 6, 8, 10
Y		5, 7, 9
Y	JP 3169344 U (株式会社中川) 28.07.2011 (2011-07-28) 段落0027-0028、図1-3	5
Y	JP 2020-037754 A (株式会社日鳥大和) 12.03.2020 (2020-03-12) 段落0092-0093、図7	7
Y	JP 2020-196965 A (鷺ベンチャーコンサルティング合同会社) 10.12.2020 (2020-12-10) 段落0029、図13	9

☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

“D” 国際出願で出願人が先行技術文献として記載した文献

“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献

“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

“&” 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

19. 03. 2024

国際調査報告の発送日

02. 04. 2024

名称及びあて先

日本国特許庁(ISA/JP)
〒100-8915
日本国
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

権限のある職員（特許庁審査官）

東 勝之 3K 9250

電話番号 03-3581-1101 内線 3332

様式 PCT/ISA/210（第2ページ）（2022年7月）

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2024/003042

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
US	2018/0125137	A1	10.05.2018	KR 10-2018-0048267 A KR 20-0487950 Y	
JP	3169344	U	28.07.2011	(ファミリーなし)	
JP	2020-037754	A	12.03.2020	US 2020/0068970 A1 段落 0 1 1 3 - 0 1 1 4, 図 7	
JP	2020-196965	A	10.12.2020	(ファミリーなし)	